

障害者歯科学・障害者摂食嚥下機能療法学実習（小松 知子）

Training of Dentistry for Special Needs Patient / Dysphagia Habilitation and Rehabilitation（Tomoko Komatsu）

キーワード

- ①行動療法
- ②障害特性
- ③摂食嚥下機能療法
- ④酸化ストレス
- ⑤抗酸化栄養療法

関連する学位授与方針

DP(ディプロマポリシー)

①,②,③

関連する教育実施方針

CP(カリキュラムポリシー)

①,②,③,④

授業概要

障害者歯科での予防歯科・歯科医療の発展のためには、個々の障害の要因に関する基礎的アプローチと臨床的アプローチを融合させたエビデンスを得る必要がある。歯周病、Down症候群、脳血管障害、認知症など多くの疾患の原因である活性酸素種による酸化ストレスについて、唾液や培養細胞を用いた酸化ストレス評価と行動療法的評価、歯科疾患や摂食嚥下機能障害に関する種々な検査による評価方法と栄養療法などを実習により身につける。

授業科目の学修目標

唾液採取方法や培養細胞を用いた分子生物学的手法の修得と活性酸素種による酸化ストレス評価技術の基礎的アプローチと疾患・障害特性に配慮した適切な治療手技の修得による臨床的アプローチを連携させることができる十分な知識と専門性の高い態度・技能を身につける。

授業計画

- ①障害者歯科学および摂食嚥下機能療法的研究計画立案実習 14コマ  
疾患メカニズムと心身機能や背景因子に関する評価能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。
- ②行動療法研究分析実習 10コマ  
障害児者に用いる行動療法に関する研究に必要な分析手法を教授する。
- ③酸化ストレス測定実習 18コマ  
全身疾患と摂食嚥下機能における活性酸素種による酸化ストレス評価技術と栄養学的分析手法を教授する。
- ④培養細胞を用いた基礎系実習 18コマ  
Down症候群歯肉線維芽細胞を用いた歯周病を主とした口腔疾患研究の分子生物学的手法と評価を教授する。  
実習担当教員 小松 知子 赤坂 徹 高野 知子 野口 毅

教科書および参考書

「口から診える症候群・病氣」池田正一・黒木良和 監修 日本障害者歯科学会 編 口腔保健協会  
「摂食嚥下リハビリテーション」第3版 才藤栄一・植田耕一郎 監修 医歯薬出版  
「活性酸素の本当の姿」鈴木敬一郎 編集 ナップ社

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

知識の修得を積極的に行い、実習前に実習内容を指導教員に確認し、理論を熟知して実習に臨むこと

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 障害児・者の障害特性を把握し、障害者歯科学および摂食嚥下機能療法的研究計画の立案ができる。
- ② 障害児・者に用いる行動療法の理論を理解し実践することができる。
- ③ 活性酸素による酸化ストレス測定の理論を理解し実践することができる。
- ④ 培養細胞を用いた分子生物学的手法における理論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	0%	20%	20%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・成果発表は、授業計画の4項目について、学会発表・論文作成に必要な学会抄録と論文草稿をまとめて発表する。5%×4回=20%
- ・ポートフォリオは、ラポノートを中心としたラーニングポートフォリオにより知識、技能、態度を評価する。  
積極的、意欲的な態度に関しては加点する。1回20%
- ・実技は、授業計画の4項目について理解度と達成度を適宜、形成的に評価して判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

障害者歯科学・摂食嚥下機能療法実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。